



2024年3月28日

各 位

会社名 株式会社イボキン  
代表者名 代表取締役社長 高橋 克実  
(コード番号：5699 東証スタンダード)  
問合せ先 執行役員管理本部長 吉田 朋子  
(TEL 0791-72-5088)

## 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2024年1月から2026年12月までの3年間を計画期間とする中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

中期経営計画（2024年度～2026年度）について

#### 1. 重点施策

##### ■人的資本の開発

人材の採用を積極的に行い、主に営業体制を強化するとともに、教育研修の体制整備を実施します。また健康面での配慮や従業員エンゲージメントの向上に努めます。

##### ■先端技術開発

業務の効率化、安全性の確保、働き方の変革等のため、遠隔操作、自動化等の技術を導入するための研究開発を実施します。

#### 2. 経営数値目標

2026年度

売上高 115億円

営業利益 9億円

#### 3. 期間 2024年度から2026年度まで（3ヵ年）

#### 4. その他 詳細については、添付資料をご確認ください。

以 上

# 中期経営計画(2024~2026)骨子

2024年3月28日

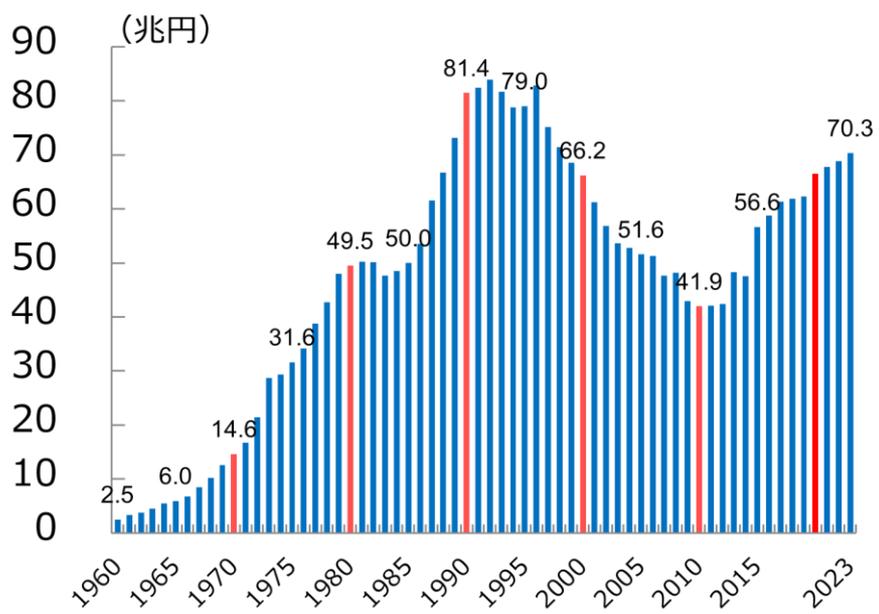
株式会社イボキン（証券コード：5699）

# 今後のトレンドについて

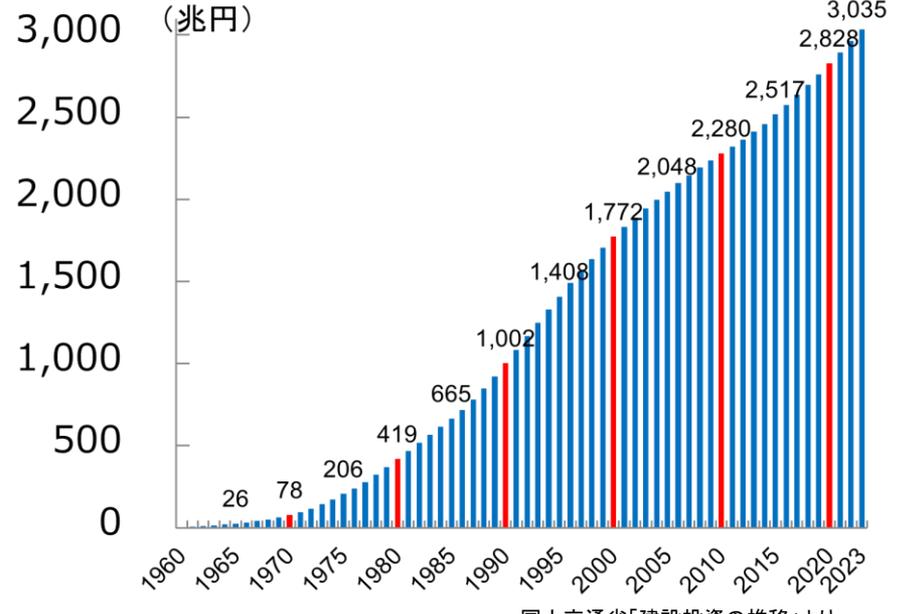
- ◆高度経済成長期以降に集中的に整備された累計3千兆円を超える膨大な建造物が順次老朽化
- ◆建築物の屋内の、工作機械や医療機械、発電機や各種タンクなど膨大な数の重量物も更新の時期を迎えつつある

- ◆生産年齢人口（15～64歳）が減少し産業廃棄物等の発生は漸減傾向に。人材難も加速
- ◆世界的な環境意識の高まりを受け、企業が廃棄物・CO<sub>2</sub>等の環境負荷を把握する動きが活発化。処理業者も選別される時代に変化

## 建設投資額（名目値）の推移



## 建設投資累計額（名目値）の累計



国土交通省「建設投資の推移」より

## 当社の使命

当社は、日本の美しい自然環境を未来に残し、  
「もったいない」の心を社会に広めることを使命とする。

## 長期ビジョン

静脈産業を統合し、社会を変革する能力をもつことで、  
動脈産業と協働し、循環型社会（サーキュラー・エコノミー）  
への転換を導く。

## 10年ビジョン

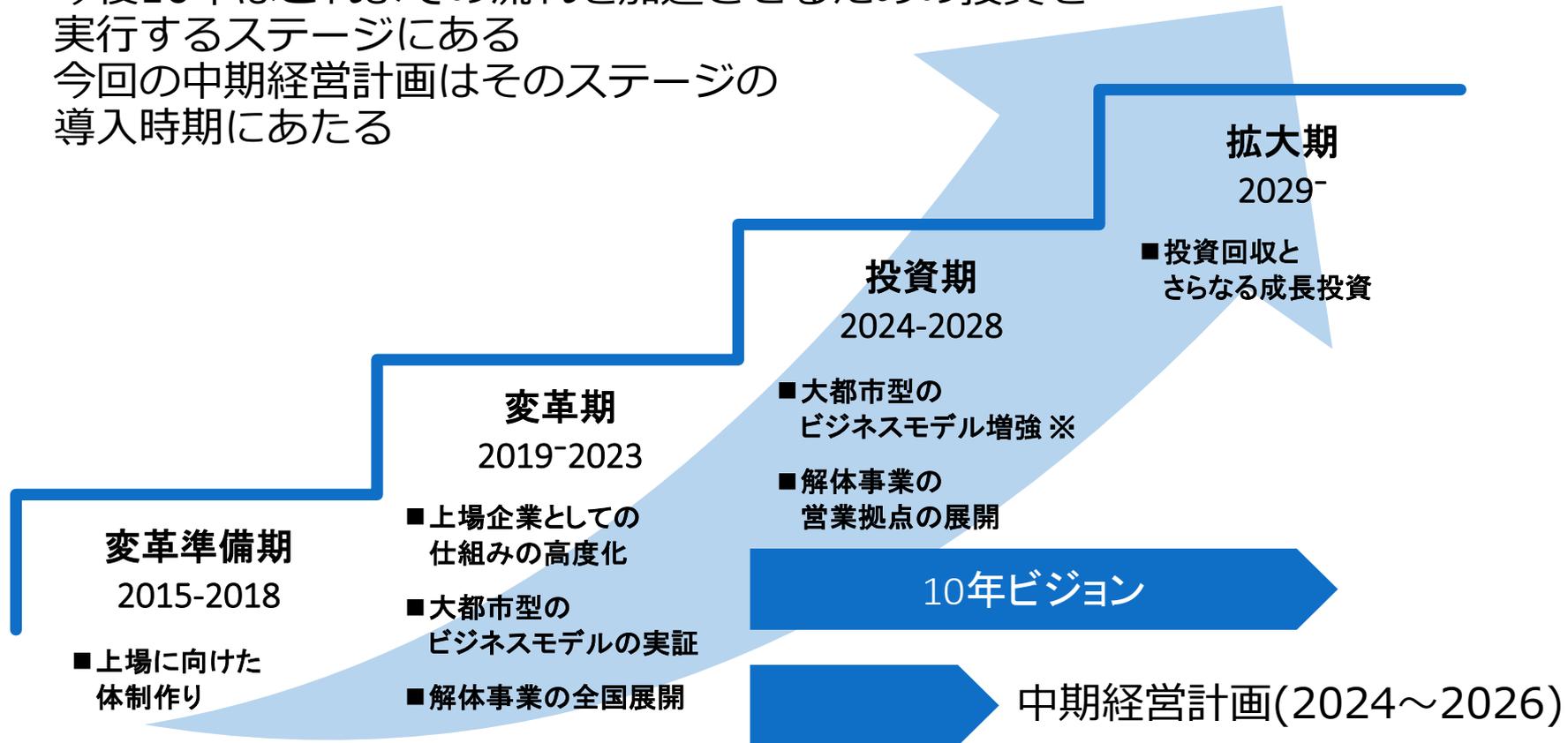
さまざまな組織や人材を巻き込む求心力を得るため、  
先端技術の開発・導入を行うとともに、事業規模の拡大を目指す。

## 10年後のありたい姿(2033年12月期末時点の事業規模)

- ◆グループ人員数350名
- ◆連結売上高300億円、営業利益25億円

# 中期経営計画(2024~2026)の位置づけ

当社グループは、これまでさまざまな変革を実行  
今後10年はこれまでの流れを加速させるための投資を  
実行するステージにある  
今回の中期経営計画はそのステージの  
導入時期にあたる



※ 大都市近郊での金属・廃棄物の複合ヤードの操業  
処理困難物の加工・処理に注力

# 資源配分の基本的な考え方

イボキンの強みである、解体・環境・金属の3つの事業によるワンストップサービスを推進させるため、地域的な制限のない解体事業を成長エンジンとしつつ、環境・金属事業の事業地域を拡大するため、バランスよく資源を配分する方針

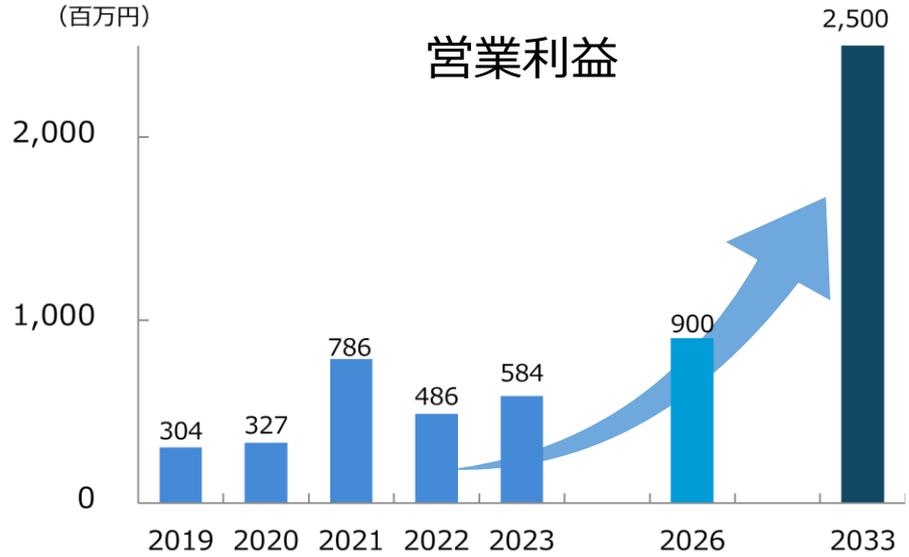
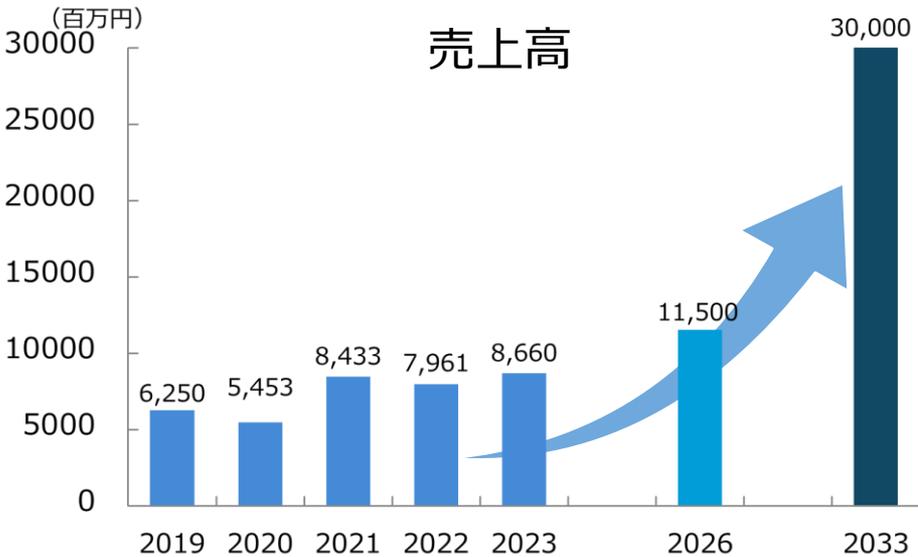
<p><b>成長のエンジン</b></p> <p><b>解体事業</b></p> <p>【メインテーマ】 大型案件への対応能力・信頼性の獲得</p>	<p><b>安定した経営基盤</b></p> <p><b>環境事業・金属事業</b></p> <p>【メインテーマ】 事業エリアの拡大と営業企画部門の設置</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 大型解体案件にかかる技術の開発と蓄積<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 風力発電所解体事業の推進</li><li>✓ 超大型解体用重機の追加導入</li><li>✓ 提案力・ドキュメント能力向上</li></ul></li><li>◆ 営業拠点の増設</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 事業領域の拡大<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 営業拠点の増設</li><li>✓ 新ヤードの確保</li><li>✓ M&amp;Aの積極推進</li></ul></li><li>◆ 地元関西圏の解体案件の受注に注力する営業体制の強化</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 事業拡大を支える人材の確保と育成</li><li>◆ 先端技術への投資を活発化させ、リサイクル業の变革をリード</li><li>◆ 環境負荷の見える化及び低減を行い、取引先企業の情報ニーズへ対応</li></ul>	 <p><b>労働集約産業から 知識集約産業へ転換</b></p>
---	--

# 中期経営計画(2024~2026)の経営目標数値



財務KPI	2022年度実績	2023年度実績	2026年度計画	2033年度 (ありたい姿)
売上高(連結)	7,961百万円	8,660百万円	11,500百万円	30,000百万円
営業利益(連結)	486百万円	584百万円	900百万円	2,500百万円



事業	非財務KPI	2023年度実績	2026年度計画
解体事業	工事監督者数(人)	26人	56人
環境事業	処理受入数量(トン)	22,000トン	27,000トン
金属事業	スクラップ取扱量(トン)	77,000トン	100,000トン

■スクラップ取扱量は、当社工場での処理量と協力会社への直送取引量の合計

- ◆ 再エネ100宣言 RE Actionに参加し、2030年に消費電力の100%を再生可能エネルギー由来の電気に切り替え予定。2024年度は本部（管理本部・解体事業事務所）について切り替えを実施し、他の事業所についても順次切り替え予定
- ◆ 2023年4月に経済産業省が進めるGXリーグに参加。CO<sub>2</sub>排出量情報の発信などを進める。今後の先進企業や監督当局によるルールメイクに同調した対応を図る
- ◆ サステナビリティに関する国際的な評価機関であるecovadisの2023年度評価において全世界上位25%の水準に相当する企業が認定される「シルバー」評価を獲得。今後はより高いグレードを目指す

ecovadisは2007年パリに設立のサステナビリティ評価機関で10万社以上を評価。テーマは「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な調達」の4点。米国大手通販会社や本邦大手自動車メーカーではecovadisの評価を取引先の選別に利用している。



再エネ100宣言  
RE Action



GX  
League



## 風力発電所解体 リサイクル事業の推進

- ◆現在、全国の複数の陸上風力発電所解体が進行中
- ◆風車ブレード（羽根）の100%リサイクルを実現する商流を開拓。セメント製造のための熱源とするとともにセメント原料へ再資源化
- ◆今後の受注獲得に向け、ソリューションのラインナップを増やす



# 超大型解体用重機の追加導入

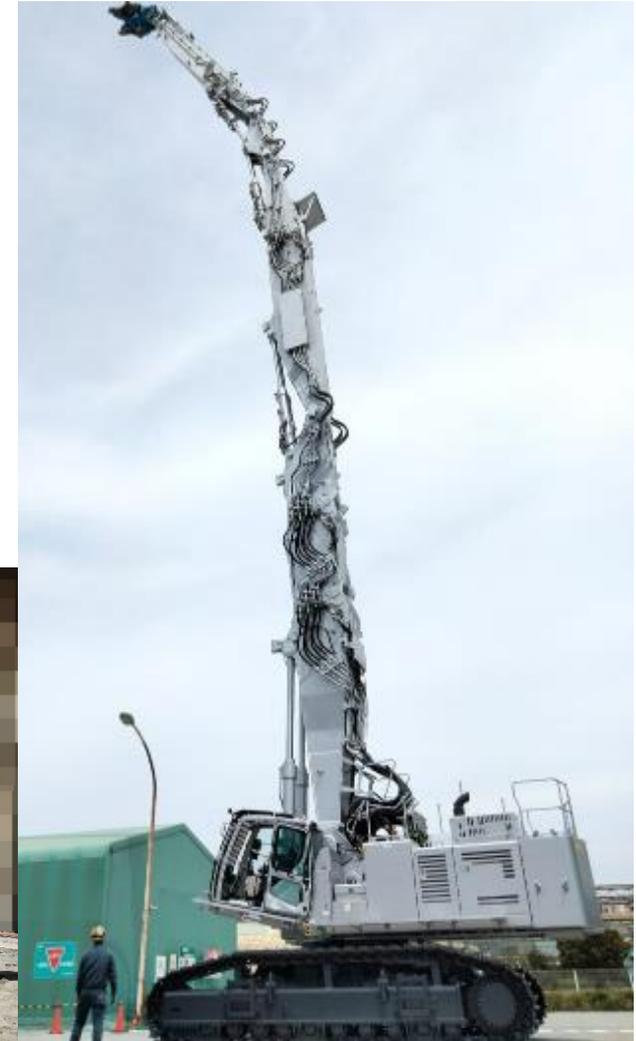
## 昨年8月、130トン級の超大型建物解体専用機 (コベルコSK1300DLC) を導入

従来と比較して

- ◆ 最大40メートルの高さまで届く
- ◆ 大型のカッター・圧砕機が使用可能
- ◆ 重機と解体物との距離を保つことができる

安全性が飛躍的に向上するとともに作業員が  
高層階で作業を行う工数を大幅に削減

## 大型・高層解体工事案件が増加していることに 対応し追加導入を検討中



# 重点施策 (人的資本開発)

## 解体事業

- ◆ 今後陣容を大幅に強化2026年末までに工事監督者を56人、2033年末までに98人に
- ◆ 大型工事に要求されるドキュメント作成能力と、3D CAD、ドローン等のテクノロジーを活用した提案力を増強
- ◆ 2024年2月に大阪支店を開設。今後主要都市への支店開設を検討

## 環境事業・金属事業

- ◆ 新規サービスと顧客開拓を担う営業企画部門を設置
- ◆ 弊社工場でのスクラップ等処理量を増やすため、地元関西圏での解体案件の受注に向け、営業チームを増強
- ◆ 新たなヤードの運営を担う担当者確保・育成し、開設に備える



## 研修制度の整備

- ◆ 2021年度から開始した営業研修に加え、2023年度は管理部門担当者向けの業務研修、次世代リーダー研修を開始。今後も必要な研修制度を体系立てて整備する



## 健康経営

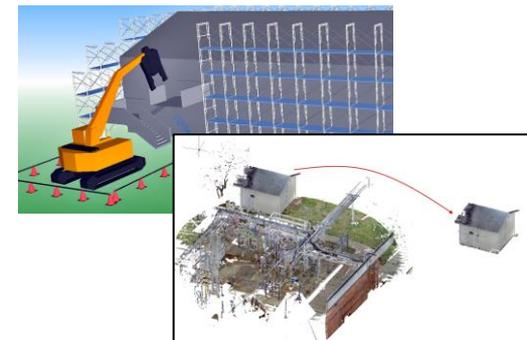
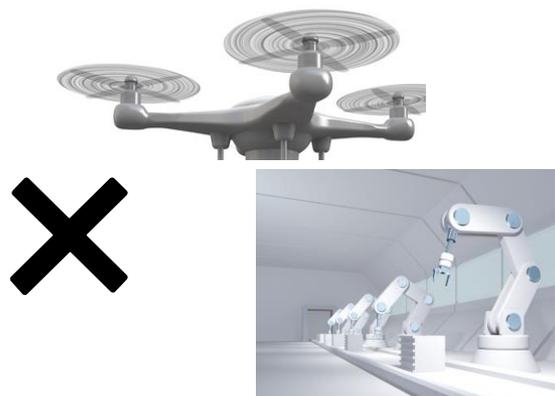
- ◆ 2021年度から健康経営優良法人（中小規模法人部門）に認定。今後もレベルアップを図る



## 従業員エンゲージメント向上

- ◆ 勤務条件の柔軟化など、働き方改革を継続中。従業員エンゲージメントを向上させる

# 重点施策 (技術開発)



## 目的

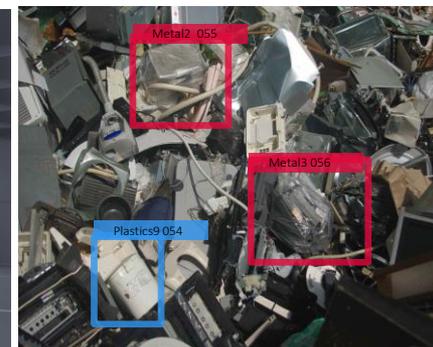
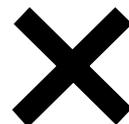
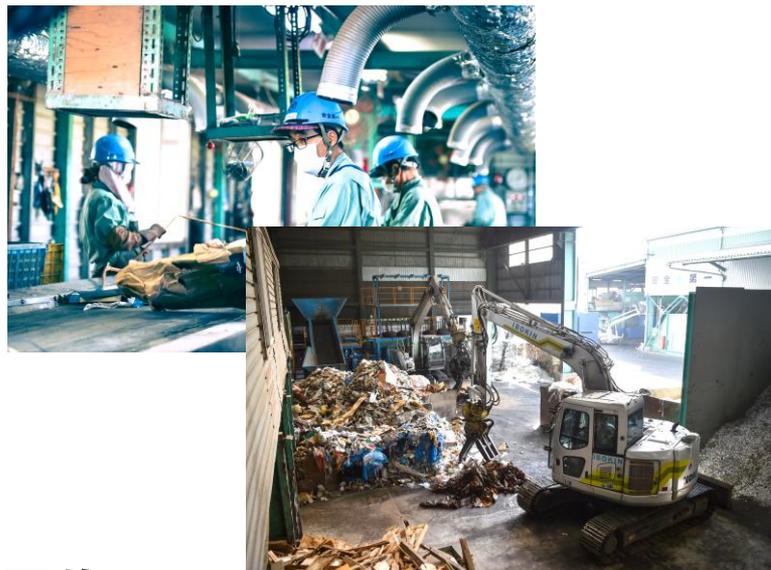
崩落の危険性がある災害現場や高放射線下の廃炉作業等においては、二次災害リスクの低減措置として生身の人間での作業を最小化する事が必要不可欠であり、既存の解体技術の遠隔化を目的とする

### 計画立案

➡ドローンや自走式ロボットによる3次元測量、点群データ化

### 解体作業

➡遠隔操作ロボットによる無人での重機解体、自走式アームによる選別作業の無人化



## 目的

資源循環型社会を担う選別作業において画像認識AIを導入する事で、リサイクル率の向上を図ると共に、ロボットアームとの組み合わせによる自動化や、遠隔操作重機による労働環境の改善を目的とする

### 小型選別作業

➡ロボットアームに搭載したカメラを画像認識AIと接続し、ラインに流れる廃棄物を自動選別

### 大型選別作業

➡遠隔操作重機により粉塵や騒音振動といった条件から解放され、パフォーマンスの向上



## 2022年12月

当社工場にて、コーワテック(株)製の無人遠隔操作ロボットSAM(サム)とモックアップを用いた廃炉作業の実証実験を行い、諸条件を整える事で高放射線環境下でも有人操作に近い重機解体が可能である事を証明

**2023年1月～2023年8月**

福島第一原子力発電所の廃炉プロジェクトにおける2件の工法検討業務を受注し、無人遠隔操作重機解体を前提とした施工方法の立案を行う

- ◆ 排気塔解体工事
- ◆ 原子炉建屋外壁開口設置工事



イメージ「出典：Google Earth」



イメージ「出典：東京電力ホールディングス」

## 工数の削減

➔ 少人数化により工数が削減し、お客様に低コストのメリットを提供

## 安全性確保

➔ 人と重機の接触事故や、作業中の労働災害が減少

## 働き方改革

➔ 人手不足と長時間労働の改善が急務となる建設業界において、遠方への出張対応や通勤時間の短縮を図る事が可能となりワークライフバランスが向上

## 多様性推進

➔ 肉体労働からオペレーション業務へと移行する事で、女性の活躍推進や子育て世代の在宅勤務を可能にすると同時に、e-スポーツ形態で技術大会を実施し、技術研鑽と向上を図る事が可能

社会課題の解決に向けて取り組みを加速

(将来に関する記述等についてのご注意)

- 本資料に開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、既知および未知のリスクや不確実性およびその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。
- こうしたリスク、不確実性およびその他の要素には、当社の最新の有価証券報告書、四半期報告書等の記載も含まれ、当社は、将来に関する記述のアップデートや修正を公表する義務を一切負うものではありません。
- 従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

